

2023年度 事業計画書

公益財団法人 武田科学振興財団

当財団は、「科学技術の研究を助成振興し、科学技術思想の普及を図り、もって我が国の科学技術および文化の向上発展に寄与する」ことを目的として、文部省（当時）の認可を受けて 1963 年 9 月 30 日に設立し、その後内閣総理大臣の認定を受けて 2010 年 12 月 1 日に公益財団法人に移行した。

事業活動の財源は、武田薬品工業株式会社からの同社株式に対する受取配当金であり、2009 年度以降、同額の配当（約 32 億円）が 2022 年度まで継続している。

財源のほとんどを上記配当金に依っており、配当金が変化する可能性もあるが、本年度受取配当金も 2022 年度と同じと想定し、2022 年度と同程度の事業規模とする。

1. 科学技術に関する研究機関および研究者に対する研究助成（研究助成）

本年度より杏雨書屋研究助成は廃止する。

- (1) 武田報彰医学研究助成は、財団の理事・評議員等から推薦された、大学、研究機関の研究室立上げ 3 年未満の医学系研究者を対象に、世界をリードする医学の先端研究に対して、1 件 3,000 万円 10 件 計 3 億円を贈呈する。
- (2) ハイリスク新興感染症研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、人類にとって脅威となりうるハイリスク新興感染症の対策に必要な基礎研究、臨床研究、疫学・社会医学的研究等の多様な研究に対して、1 件 1,000 万円 10 件 計 1 億円を贈呈する。
- (3) 生命科学研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野における新たな発見に貢献し、当該分野の進歩・発展の基盤となる独創的な研究に対して、1 件 1,000 万円 30 件 計 3 億円を贈呈する。
- (4) 医学系研究助成は、医学系の満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、医学分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1 件 200 万円 240 件 計 4 億 8,000 万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の2020年度および2021年度被助成者を対象に公募を行い、1件300万円 30件 計9,000万円を贈呈する。[がん領域（基礎・臨床）、精神・神経・脳領域、感染領域、前記3領域以外の基礎、臨床：研究助成・継続助成とも採択件数は各応募数の比率配分で決定する]

- (5) 薬学系研究助成は、薬学系の満45歳未満の研究者を対象に公募を行い、薬学分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1件200万円 40件 計8,000万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の2020年度および2021年度被助成者を対象に公募を行い、1件300万円 5件 計1,500万円を贈呈する。

- (6) ライフサイエンス研究助成は、医学・歯学・薬学系を除く大学・学部や研究機関、高等専門学校に所属する満45歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野の進歩・発展に貢献し、人類の健康増進に寄与する独創的な研究に対して、1件200万円 40件 計8,000万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の2020年度および2021年度被助成者を対象に公募を行い、1件300万円 5件 計1,500万円を贈呈する。

- (7) 特定研究助成は、研究機関を対象に公募を行い、我が国の医学の発展に向け、研究機関内の複数の部署・研究室が精力的に取り組む共同研究に対して、1件5,000万円以内 12件程度 計5億円を贈呈する。

- (8) ビジョナリーリサーチ助成（スタート）は、我が国の医学分野の進歩・発展に貢献する、将来に向けて夢のある斬新でチャレンジングな研究を対象に公募を行い、1件200万円 30件 計6,000万円を贈呈する。

継続助成（ホップ）は、2020年度および2021年度（スタート）被助成者を対象に公募を行い、1件500万円 10件 計5,000万円を贈呈する。

継続助成（ステップ）は、2020年度および2021年度（ホップ）被助成者を対象に公募を行い、1件1,000万円 5件 計5,000万円を贈呈する。

継続助成（ジャンプ）は、2020年度および2021年度（ステップ）被助成者を対象に公募を行い、1件3,000万円 最大2件 計6,000万円を贈呈する。

- (9) 中学校・高等学校理科教育振興助成は、国内の中学校・高等学校（高等専門学校を除く）およびそれに準ずる機関の教員および職員を対象に公募を行い、中学校および高等学校の理科教育に貢献する研究または実践に対して、1件30万円 70件 計2,100万円を贈呈する。（中学校および高等学校の採択件数は各応募数の比率配分で決定する）

以上、研究助成の贈呈金総額は 22 億 100 万円（対前年度計画比 500 万円減）となる。本年度は、研究助成事業として 23 億 3,974 万円（共通費用配賦前 23 億 1,070 万円）を計上する。

2. 研究者および学生に対する奨学助成（奨学助成）

(1) 外国人留学研究者に対する助成（外国人留学助成）

日本において医学・薬学などの医療分野で研究する外国人留学研究者に対する留学助成を行う。

- ① 7 指定国・地域（下表参照）については、各選考委員会で選考され、かつ日本国内の研究機関より受け入れ承認された留学研究者候補について所定の審査のうえ、理事長の承認を経て決定した者に対して留学助成を行う。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、2022 年度内定者の 12 名が 2023 年度に繰越見込みとなるため、昨年度と同様、助成枠を 35 名に縮小する。留学助成期間は 3 ヶ月以上 2 年以内。なお、このうちの 5 名（台湾、タイ、フィリピン、中国、インドネシア、各 1 名）は、原則 35 歳以下の基礎研究者とする。留学助成期間は 1 年以上 2 年以内。
- ② 7 指定国・地域以外の国については、日本国内の受入機関の研究者が申請した留学助成対象者について、日本国内の選考委員会で選考し、理事長の承認を経て決定する。定員は 10 名とする。
- ③ 2023 年度認定者から留学助成金を月額 30 万円とし、渡航費は実費支いとする。また、基準超過居住費の補助については廃止する。
- ④ 留学助成する留学研究者数の内訳は、下表の通りである。

本年度は、前年度繰越を合わせて総額 1 億 6,365 万円（渡航費含む）を留学助成する。

() は基礎研究者の内数

国名	2023年度人數計画
台湾	3名(1名)
タイ	6名(1名)
フィリピン	6名(1名)
韓国	3名
中国	8名(1名)
インドネシア	6名(1名)
ベトナム	3名
7指定国小計	35名(5名)
上記7指定国以外	10名
合計	45名
2022年度より繰越	12名
総計	57名

(2) 医学部博士課程入学者に対する助成（医学部博士課程奨学助成）

医学部医学科卒業見込学生および医学部医学科卒業者で国内の指定7大学（北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）の医学（系）研究科博士課程基礎医学系への入学者に対し、奨学助成（年間360万円、最大4年間）を行う。

指定7大学から募集、選考、推薦された候補者（原則各大学から2名 計14名）について、理事長が最終決定する。本年度は、2020年度から2022年度の奨学助成者42名と合わせた56名に、総額2億160万円を奨学助成する。

また、2021年度助成者で継続奨学助成の推薦を受けた者の中から、審査の上、研究優秀者に対し1件50万円 最大2件 計100万円を追加で奨学助成する。

(3) 海外研究留学者に対する助成（海外研究留学助成）

留学出立年度末に37歳以下の医師で博士号(PhD)保持者またはPhD取得を目指す大学院博士課程在籍者に対し、海外滞在費として年480万円の2年～4年（2年を超える滞在の場合は、2年終了前に延長の可否を審査する）、および渡航費往復40万円の留学助成を行う。

選考委員会で、業績に加え、信条、留学中の研究計画など、多様な観点から10名を選考し、理事長が最終決定する。

本年度は、2020年度の海外研究留学者10名のうち7名が4年目、1名は出立がコロナ禍で1年遅れたことから2021年度に繰り越しとなり2021年度の10名と合わせて11名が3年目、2022年度の10名が2年目、および1年目の2023年度の10

名と合わせて総勢 38 名に総額 1 億 8,640 万円（渡航費含む）を留学助成する。
本年度は、奨学助成事業として 5 億 9,646 万円（共通費用配賦前 5 億 7,890 万円）を計上する。

3. 我が国医学界における優れた研究者に対する褒賞（武田医学賞）
財団の理事・評議員等から推薦された、医学界において顕著な業績を挙げた候補者につき、選考委員会で受賞者 2 名または 2 件を決定し、武田医学賞として賞状、賞牌、楯ならびに副賞（1 件 2,000 万円）を贈呈する。
本年度は、武田医学賞事業として 6,770 万円（共通費用配賦前 6,040 万円）を計上する。

4. 科学技術の時流に合ったテーマによる国際シンポジウムの開催（国際シンポジウム）
生命科学ならびに薬科学における未解決の問題を解明するために、国内外の科学者が一堂に会し、時宜にかなったテーマを基にその叡智と知識を交換する国際シンポジウムを開催する。
本年度は、2021 年度にコロナ禍のために延期となった第 11 回 武田科学振興財団 薬科学シンポジウムを開催する。

テーマ：“Imaging-directed development of cutting edge drugs and medical technologies”

「イメージングによる最先端医薬品・医療技術開発」

組織委員長： 浦野 泰照 （東京大学 教授）

組織委員： 青木 伊知男 （量子科学技術研究開発機構 上席研究員）

深瀬 浩一 （大阪大学 教授）

講 演： 20 名を予定（国内 6 名、海外 14 名）

ポスター発表（公募）

会 期： 2024 年 1 月 26 日（金）～27 日（土）

場 所： 未定、大阪府

参 加 者： 200 名/日の予定

ポスター褒賞：シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、選考委員会で決定し、褒賞金として 1 件 50 万円 5 件 計 250 万円を贈呈する。

本年度は、国際シンポジウム事業として 7,555 万円（共通費用配賦前 6,560 万円）を計上する。

5. 科学技術の振興に関する出版物の発刊（本草医書発刊）

- (1) 杏雨書屋蔵書の復刻版や学術書等を発刊する。

本年度の発刊予定は、『聖徳太子伝暦』、『崇蘭館本解説』、『書簡集（三）』、『磧砂版大蔵経目録』第十二冊および『磧砂版大蔵経目録』第十三冊の計5冊である。

- (2) 杏雨書屋機関誌「杏雨」26号を発刊する。

本年度は、本草医書発刊事業として4,127万円（共通費用配賦前3,550万円）を計上する。

6. 東洋医書その他図書資料の保管、整理、収集および公開（本草医書公開）

- (1) 研究者を対象にした閲覧、複写、所蔵品の図版掲載希望に対して必要により審査を経て対応する。
- (2) 保管図書資料の常設展示を行う。特別展示会は例年通りテーマを決めて春と秋に実施する。

2023年度の特別展示会予定テーマ

4月：「医家の詩文・書画 その2」

10月：未定（2023年6月末までに決定する）

- (3) 特別展示会のテーマに基づく研究講演会を年2回開催する。
- (4) 図書資料の解読・調査作業および目録作成（電子化を含む）、所蔵図書の複製本作製、蔵書補修、書套作製を継続する。蔵書目録は将来的には書籍として発刊するが、まずは2023年度中にWebサイトから検索できる電子化を実現する。また、閲覧室内のPCで検索と同時に蔵書の内容を写真で見られるシステムを完成する。蔵書、軸物の補修は資料の重要性と損傷度を吟味し、優先順位をつけて実施する。
- (5) 本草書・東洋医書を中心とした関連図書の収集を進め、所蔵図書の充実を図る。具体的には蒐集家からの移管、古典会における入札、古書店からの紹介を積極的に利用する。
- (6) 杏雨書屋研究員制度を財団内の職位として新設する。杏雨書屋蔵書研究で実績のある数名を任命する。研究員は杏雨書屋で活発に研究すると共に、成果を積極的学会発表し、杏雨書屋の知名度、価値を高める。

本年度は、本草医書公開事業として1億6,897万円（共通費用配賦前8,810万円）を計上する。

以上

事業年度 2023年4月1日～2024年3月31日

資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

借入れの予定		<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし
事業番号	借入れ先	金額	使途

(2) 設備投資の見込みについて

設備投資の予定		<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の予定額	資金調達方法又は取得資金の使途
公6	重要古書の購入	70,000,000円	自己資金
公6	自動化書庫関連システム の構築	30,000,000円	自己資金